

平成30年度は、11地域に対し、以下の7名の地域活性化伝道師を派遣した。

※「所属」は平成31年3月31日現在のもの。

圏域	No.	派遣先・相談主体	伝道師名	所属・肩書
首都圏	1	東京都調布市	藤崎 慎一	株式会社 地域活性プランニング 代表取締役
	2	埼玉県新座市	藤崎 慎一	株式会社 地域活性プランニング 代表取締役
	3	千葉県茂原氏	藤崎 慎一	株式会社 地域活性プランニング 代表取締役
北陸圏・中部圏	4	長野県箕輪町	山田 桂一郎	JTIC. SWISS 代表
	5	愛知県幸田町	藤崎 慎一	株式会社 地域活性プランニング 代表取締役
	6	石川県宝達清水町	白枝 淳一	特定非営利活動法人出雲スポーツ振興21 専務理事・シニアコーディネーター
近畿圏	7	滋賀県	加藤 孝一	カルネコ株式会社 代表取締役 社長
中国圏	8	岡山県勝央町	澤田 廉路	鳥取大学／地域価値創造研究教育機構 地域連携 PBL 推進室長／特命准教授
九州圏・沖縄県	9	大分県国東市	天野 礼子	NPO法人「日本に健全な森をつくり直す委員会」事務局長
	10	鹿児島県肝付町	柴田 敏郎	独立行政法人 医薬基盤研究所 薬用植物資源研究センター 客員研究員
	11	長崎県島原市	藤崎 慎一	株式会社 地域活性プランニング 代表取締役

※地域活性化伝道師の詳細なプロフィールは、当推進事務局のホームページをご参照ください。

地方創生推進事務局＞施策＞地域活性化伝道師

<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/ouentai.html>

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	ロケツーリズムによる地域振興セミナー	相談主体	東京都調布市・狛江市・日の出町
派遣伝道師	藤崎 慎一	ブロック名	首都圏ブロック
相談内容	<p>○フィルムコミッション(撮影支援)事業を通じてロケ誘致に取り組んでいたが、効果的な観光振興・産業振興に結び付けられていない。(調布市ロケ支援数:H29年度 114件)</p> <p>○ロケ地を観光に活用したロケツーリズムを通じて地域振興を図るため、地域活性化伝道師を招き講演を実施する。講師が携わった全国各地の事例などからシティープロモーションの在り方を探す。</p>		
相談への対応内容	<p>○幹部職員と懇談し、ロケツーリズムによる地域振興の方針を確認した。</p> <p>○藤崎伝道師による講演(ロケツーリズムによる地域振興セミナー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光協会・議会・商工会等の関係者や、市職員等83人が参加。 ・実際にロケツーリズムに取り組んでいる全国各地の事例の紹介。 ・ロケツーリズムの権利処理等について、必要なツール、組織体制の説明。 <p>○中核となるメンバーでのワーキンググループにおいて、講演における疑問点や不明点を確認し、今後の取組みに対する考えや組織体制の方向性を確認。</p>		
成果	<p>○藤崎伝道師が関係した具体的な取り組み事例、ロケ地を観光につなげる手法を紹介いただき、ロケ期間中だけでなく、ロケ終了後の継続的な地域振興の可能性を確認できた。</p> <p>○地域活性化の手法として、ロケツーリズムの有用性の意識共有が図れた。</p> <p>○官民一体の組織の中核となる商業者、観光関係者のロケツーリズムに対する機運を盛り上げることができた。</p>		
課題	<p>○漫然とロケ支援を行うのではなく、地域振興に繋げるための方策(クレジット・宣伝画像の入手、番組公開後のPR等)を、一つ一つの撮影で取り組んでいく。</p> <p>○映像制作者にとって調布市・狛江市・日の出町がロケに訪れたい地域となるよう、関係者だけでなく各自治体の住民の協力が必要。</p>		
今後の方針	<p>○ロケを通じた効果的なプロモーションのために必要な実務知識(権利処理等)の情報交換会を、3市町間で9月・11月に開催予定。</p> <p>○映画・テレビプロデューサー等を3市町に招き、制作サイドのニーズを把握するための「ロケハンツアー」を10月に開催予定。</p> <p>○ロケ地情報サイトや、ロケ専門誌において3市町のロケ地情報PRを実施予定。</p> <p>○来年度以降、住民も巻き込んだ体制づくりに向けた検討会を実施予定。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	ロケツーリズムによる 地域振興セミナー	相談主体	埼玉県新座市
派遣伝道師	藤崎 慎一	ブロック名	首都圏ブロック
相談内容	<p>○新座市では、フィルムコミッション(撮影支援)事業を通じてロケ誘致に取り組む方針であるが、効果的な観光振興・産業振興の方向性が見いだせていない。</p> <p>○ロケ地を観光に活用したロケツーリズムを通じて地域振興を図るため、地域活性化伝道師を招き講演を実施する。講師が携わった全国各地の事例などからシティープロモーションの在り方を探す。</p>		
相談への対応内容	<p>○新座市長等幹部職員と懇談し、ロケツーリズムによる地域振興の方針を確認した。</p> <p>○藤崎伝道師による講演(ロケツーリズムによる地域振興セミナー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光協会・議会・商工会等の関係者や、市職員等100人程度が参加。 ・実際にロケツーリズムに取り組んでいる全国各地の事例の紹介。 ・ロケツーリズムの権利処理等について、必要なツール、組織体制の説明。 		
成果	<p>○藤崎伝道師が関係した具体的な取り組み事例、ロケ地を観光につなげる手法を紹介いただき、ロケ期間中だけでなく、ロケ終了後の継続的な地域振興の可能性を確認できた。</p> <p>○地域活性化の手法として、ロケツーリズムの有用性の意識共有が図れた。</p> <p>○官民一体の組織の中核となる商業者、観光関係者のロケツーリズムに対する機運を盛り上げることができた。</p>		
課題	<p>○漫然とロケ支援を行うのではなく、地域振興に繋げるための方策(クレジット・宣伝画像の入手、番組公開後のPR等)を、一つ一つの撮影で取り組んでいく。</p> <p>○映像制作者にとって新座市がロケに訪れたい地域となるよう、関係者だけでなく地域住民の協力が必要。</p>		
今後の方針	<p>○ロケを通じた効果的なプロモーションのために必要な実務知識(権利処理等)を新座市職員が習得し、地域住民に共有を図る。</p> <p>○映画・テレビプロデューサー等を新座市に招き、制作サイドのニーズを把握するための「ロケハンツアー」を検討する。</p> <p>○ロケ地情報サイトや、ロケ専門誌において新座市のロケ地情報PRを実施を検討する。</p> <p>○来年度以降、住民も巻き込んだ体制づくりを検討する。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	ロケツーリズムによる地域振興セミナー	相談主体	千葉県茂原市
派遣伝道師	藤崎 慎一	ブロック名	首都圏ブロック
相談内容	<p>○ロケ地を観光に活用したロケツーリズムを通じて地域振興を図り、全国に茂原市をアピールするため、地域活性化伝道師を招き講演を実施する。講師が携わった全国各地の事例などからシティープロモーションの在り方を探す。</p> <p>○ドラマ撮影で使用された市内のロケ地を現場実査し、今後のロケツーリズムの可能性を見いだす。</p>		
相談への対応内容	<p>○市内のロケ地を現場実査し、地域の魅力を確認</p> <p>○幹部職員と懇談し、ロケツーリズムやご当地グルメの開発による地域振興の方針を確認</p> <p>○藤崎伝道師による講演(ロケツーリズムによる地域振興セミナー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商工・観光関係者や市職員等約130人が参加 ・実際にロケツーリズムに取り組んでいる全国各地の事例、広告換算効果等の紹介 ・ロケツーリズムの権利処理等について、必要なツール、組織体制の説明 <p>○中核となるメンバーでのワーキンググループにおいて、講演における疑問点や不明点の確認し、今後の取組みに対する考えや組織体制の方向性を確認</p>		
成果	<p>○ドラマ撮影で使用されたロケ地を現場実査し、観光資源としての活用の可能性を確認した。</p> <p>○藤崎伝道師が関係した具体的な取り組み事例、ロケ地を観光につなげる手法を紹介いただき、ロケ期間中だけでなく、ロケ終了後の継続的な地域振興の可能性を確認できた。</p> <p>○地域活性化の手法として、ロケツーリズムの有用性の意識共有が図れた。</p> <p>○官民一体の組織の中核となる商工業者、観光関係者のロケツーリズムに対する機運を盛り上げることができた。</p>		
課題	<p>○ロケツーリズムに取り組む地域はすでに多くあり、後発である茂原市が成功させるには工夫と本気が必要。</p> <p>○官民一体の組織を作り、実際に動き出すことが重要。</p> <p>○組織の中核となる商工業者の間では「具体的に何から取り組めばよいかわからない」という状況であり、行政と共に歩みを進めていくきっかけ作りが必要。</p> <p>○ロケツーリズムにおいてはマスコミ取材やロケに訪れたいくなる地域となるよう、関係者だけでなく住民の協力が必要。</p>		
今後の方針	<p>○8月25日(土)に茂原市が出場予定である「第4回全国ふるさと甲子園」において、市のPRを行うとともに、他の自治体や制作者との情報交換を行う。</p> <p>○ロケツーリズムの実施に必要な官民一体の組織を具現化するため、まずは茂原市役所企画政策課政策推進室が中心となり商工業者が参加するプロジェクトチームを立ち上げ、事業を推進していく。</p> <p>○継続的にワーキンググループを実施し、撮影支援体制の構築、シンポジウムの開催を今年度末を目標としていく。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	観光等を通じた地方創生の推進に係る講演会	相談主体	長野県箕輪町
派遣伝道師	山田 桂一郎	ブロック名	北陸・中部ブロック
相談内容	<p>○箕輪町は観光資源が少ないと言われている中、今ある町の観光資源を活かし、観光とスポーツ、林業などを絡めた交流人口の増加を図るにはどのような取り組みが有効であるかご教示いただきたい。</p>		
相談への対応内容	<p>○山田伝道師講演(箕輪町議会議員や町職員等約20人が参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政の政策立案における総生産推移等のデータの活用について ・マーケティング手法の導入について ・マーケティング手法を導入して成功を収めている先進事例について ・観光振興分野における女性の積極登用について ・地元経済でお金を回すことの重要性について ・観光振興に係る組織の一本化による行政の無駄の排除について <p>○山田伝道師との意見交換</p>		
成果	<p>○山田伝道師が携わった事例の取り組みを紹介いただき、入込客数に焦点をおくのではなく、リピーターになりうる個人客の獲得、顧客データ化などいくつかのポイントをご教示いただき大変参考になった。</p> <p>○観光振興に係る組織の一本化、民間主体で活動できる仕組みづくり、地元でお金を回す仕組みづくりの必要性を認識することができた。</p> <p>○マーケティングの重要性、またマーケティングの前に過去の事業総括が必要である点についてもご教示いただくことができた。</p> <p>○山田伝道師との意見交換の中で、私たちの観光に対する視点・捉え方の違いに気づくことができた。</p>		
課題	<p>○箕輪町でなければ、体験できない・食べられない・見られないといったものを生み出すことが重要である中で、そういった資源の掘り起こしをどう進めるか。民間主体で開発・活動するための組織づくりをどう進めるか。</p> <p>○官民一体(民間主体)の組織をつくり、実際に動き出すことが重要である。人材育成も必要である。</p> <p>○地元でお金を回す仕組みづくりが必要。</p>		
今後の方針	<p>○組織の一本化を検討するため、現在ある団体や組織等の洗い出し。</p> <p>○この研修を受け見えてきた課題に対し、箕輪町議会として、交流人口の増加を図り、人口減少対策へつなげるため、引き続き調査・研究を進め町へ政策提言する。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	ロケツーリズムとご当地グルメによる効果的なプロモーション	相談主体	愛知県幸田町
派遣伝道師	藤崎 慎一	ブロック名	北陸・中部ブロック
相談内容	<p>○愛知県内及び近隣市と比較し、「幸田町」の知名度の低さや、観光資源等の不足、消費者嗜好の変化と筆柿農家減少など、幸田町のPR不足が懸念されている。</p> <p>○全国生産量90%以上を占める筆柿をはじめ、野菜、果物、水稲などの農産物や、豊かな自然環境、年間を通じた幸田の季節を実感できるイベント等、幸田町をPRする素材はある。</p> <p>○幸田町を全国展開する手法を、地域活性化伝道師を招き、職員や商工会、道の駅などに対し意識改革を目的に講演会を実施する。</p>		
相談への対応内容	<p>○平成30年6月22日(金)、愛知県幸田町役場へ藤崎慎一伝道師を招き、町職員や商工会職員、道の駅社員等、約70名を対象に「地方創生のカギがここにある ロケツーリズムとご当地グルメによる効果的なプロモーション」と題し、講演会を実施。</p> <p>○ドラマ等のロケ地を幸田町として取り入れ、観光客を呼び込む手法をご講演いただき、更にロケ現場で特産物等を芸能人へ食していただくなど、幸田町のPRをしていく。</p> <p>○観光担当職員や若手職員、商工会職員などのメンバーで構成したワーキンググループにおいて、幸田町のロケ地候補や、SNSを活用したPR方法を協議した。</p>		
成果	<p>○他自治体での成功例をご講演いただき、地域と行政の協力体制があれば、必ず成功する。この取り組みに対し、状況次第であるが何十倍の経済効果も見込むことも可能。幸田町もチャンスがあることを学んだ。</p> <p>○行政担当者のやる気だけでは、対応できない。直接、町長に講演を聞いていただくことで、町としてスムーズに組み込みが可能となる。</p> <p>○ロケ地を観光資源として活用する、新たな取り組みとして手法を学んだ。</p>		
課題	<p>○行政だけでは、地域活性化に繋げることは不可能。今後、官民一体の組織づくりが必要。</p> <p>○観光客を引き寄せる手法や工夫が必要。新たな商品開発だけでなく、商品のネーミングやインパクトを取り入れた開発。</p> <p>○2020年の東京オリンピック観光客を視野に入れた取り組みが必要。早急な対応が必要であり、具体的な内容について検討を進めていく。</p> <p>○幸田町に宿泊施設が少ない。ロケ地に選定されても、町外での宿泊が見込まれる。</p>		
今後の方針	<p>○平成30年8月25日(土)に開催される「第4回ふるさと甲子園」へ幸田町が出場する。幸田町のPRを実施するとともに、他自治体や制作者との情報交換を行う。</p> <p>○事前準備として、幸田町の特産を取り入れたグルメ開発を民間業者と検討していく。</p> <p>○地域の協力が必要。商工会員をはじめ、幸田町の新たな取り組みに賛同していただくように、説明会などを検討していく。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	スポーツによる地域活性化を目標としたスポーツクラブの育成支援	相談主体	石川県宝達志水町
派遣伝道師	白枝 淳一	ブロック名	北陸・中部ブロック
相談内容	<p>スポーツによる地域活性化を目的とした、スポーツコミッション的組織の形成を目指し、宝達志水町の総合型地域スポーツクラブ「宝達志水スポーツクラブ」が組織の中核的存在になるような将来的成長を念頭においた、人材育成や安定的な運営体制の確立を行いたい。それにあたり、現状抱えている、人員の不足、人材のスキルアップ、現状の運営体制の再確認といった課題を解決し、スポーツによる地域活性化に向けた取組のスタート地点に立つための後押しとして、現地視察の後、相談会形式で行政やクラブに対して指導、助言をいただきたい。</p>		
相談への対応内容	<p>【平成30年5月9日(水)】 指定管理施設及び指定管理団体「NPO法人宝達志水スポーツクラブ」の経緯及び現況、課題などの概要、ならびに将来的イメージ像や町、クラブの考える地域財産について町の事務局から共有し、指定管理施設や団体の現状について把握していただいた。 その後、白枝淳一伝道師より、現状に対する所感の報告ならびに今後の運営体制をどのように改善していくべきかについて助言をいただいた。</p> <p>【平成30年5月10日(木)】 相談会の前に、宝達志水スポーツクラブの指定管理施設の現地視察を実施。 出雲市での取組について、人材育成、運営強化の2点を中心として、まちづくりや健康福祉事業の観点にも触れながら、出雲スポーツ振興21の成り立ちから現在行っている事業まで、事例紹介が行われた。また、前日に説明した地域財産を掘り下げて議論し、障害の打開策や取り組みにあたっての注意点を話していただいた。その後、クラブからの質問、相談事項に対して、指導、助言をいただいた。</p>		
成果	<p>今後、中核となるべきクラブの人員不足の解消、人材のレベルを向上させる必要があり、そのもととなる資本を形成するため、クラブの収益性を向上し、行政が精神的支援を行うことで、クラブの自立を図ることが重要。そのために、「総合型地域スポーツクラブとはこうあるべき」という根本的な考え方を換え、時代の変質に合わせてその在り方も変化していくことが求められている。社会に対してクラブがどう関わっていくか、いかに社会に必要とされるクラブになっていくかを意識して取組を行っていくことがクラブの成長に対して重要な要素であり、クラブが住民のニーズに応えられるような中間支援組織に変化していくことが収益化の鍵となる。また、スポーツはあくまで手段として捉え、どんな地域をつくりたいのか、どんな目的のために事業を実施するのか常に明確にして活動していくべきである。</p> <p>今回の相談会で、町とクラブが意識を共有することができ、町はクラブを精神的にサポートすることの重要性を知ることができた。また、クラブは収益性に意識を向ける重要性を知ることができ、官民協働でのスポーツによる地域活性化のため、気運醸成ができた。</p>		
課題	<p>指導・助言をしてもらう中で、スポーツによる地域活性化を行うために、クラブを拡大する必要があるが、そのために町、クラブともに是正していくべき点を知ることができた。</p> <p>【町】 指定管理料は正しく精査されているか。どの程度人件費が必要で、年度ごとにどのような金額が必要なのか、協議を重ねることで適正な指定管理料を支払っていかなければならない。また、指定管理期間が現在は3年となっているが、3年だと、1年目で取組開始、2年目に結果が出てくるが、3年目はまとめにかかる必要がある。いろいろな事業を試すことのできる活動期間は実質的に2年目だけになってしまい、長期的なスパンの事業や投資を実施しづらくなる。それでは収益の投資も組織拡大も図ることが難しくなるため、期間を5年にするなど、期間の延長を視野に入れた見直しが必要である。</p> <p>町として、スポーツという手段を使って、地域をどう活性化していくかというベクトルをしっかりと持ち、指定管理や各企業との取組、体育関係団体といったスポーツコミッションを構成する要素をまとめて、クラブが中核となるスポーツコミッションに育てていくという方針を強く持つことが重要。そのためには直接的な財政支援でなく、精神的支援をクラブに対して行うように意識し、クラブの自立を促さなければならない。</p> <p>【クラブ】 クラブ運営するうえで日商簿記資格など、必要なスキルを習得した職員を育成することが必要。 指定管理契約を結んでいる町とクラブは本来、対等な存在となるべきであり、いかに早く自立するかを常に意識して活動しなければならない。クラブが自立できるよう取り組んでいくために、小さなことから確実に成功を重ねることで、職員のモチベーション向上にもつながり、より大きな活動に繋がっていく。収益性の向上も重要だが、それだけに捉われることなく、組織の理念や活動の目的を常に再確認しながら、お金を生む投資、地域づくりのための投資とうまく使い分けていく必要がある。</p>		
今後の方針	<p>今年度の指定期間満了に伴い、指定期間の見直しならびに指定管理料の精査を行い、クラブが今以上に活発な活動を行えるよう、精神的サポートをしていく体制を作る。</p> <p>クラブ側は町に頼りすぎない自立した運営体制を1日でも早く作れるよう、クラブの収益化を図る。</p> <p>町とクラブが互いに対等な立場となるよう、協働でスポーツクラブの発展を進めていくことがスポーツによる地域活性化の第一歩となる。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	J-クレジット制度による地域活性化	相談主体	滋賀県西部・南部森林整備事務所
派遣伝道師	加藤 孝一	ブロック名	近畿ブロック
相談内容	地球温暖化対策が地球規模での課題となる中、J-クレジットの森林管理プロジェクトによりCO2吸収し、カーボンオフセットの仕組みを活用した環境貢献の成功事例を示すことで、環境貢献に意識の高い森林所有者と県内企業の橋渡し役となり、森林整備の推進の加速化、企業活動の活発化による地域活性化のきっかけづくりをお願いしたい。		
相談への対応内容	<ul style="list-style-type: none"> ○カーボン・オフセットのしくみを活用した環境貢献の全国での成功事例を紹介 ○企業と消費者と森林事業者を結ぶ環境貢献プラットフォーム(EVI)を活用して、企業経営における持続可能な開発目標(SDGs)の達成と地球温暖化の進行を抑制するCO2排出削減に寄与する方法を企業の立場で詳細に説明 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○滋賀県内初の森林活動プロジェクトによるJ-クレジットの発行が、近畿圏の企業にPRできた。 ○セミナー参加者からは、滋賀県内の森林事業者の具体的な取組内容についての問い合わせがあった。 ○滋賀県内の経済団体(滋賀経済産業協会)からシンポジウムで発表する機会(12/13)をいただき、その後、個別の企業訪問を実施予定。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○セミナー後のPRに際し、具体的に手に取れる商品でないため、説明に工夫が必要であることが分かってきた。(要所でカルネコ(株)に情報提供を求めることで対応中) 		
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ○セミナー参加者へのフォロー調査を実施する。 ○地域の商店街に定着する商工会議所連合会の指導員研修で情報提供し、個別・具体的な取組をフォローする。 ○滋賀県内初の森林事業者と顔の見える関係を築きやすい地元企業に対して、具体的に採用しやすい方法(オフセットの先進事例)を提案しながら営業活動をサポートする。 		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	勝間田出雲街道を中心としたまちづくりについて	相談主体	岡山県勝央町
派遣伝道師	澤田 廉路	ブロック名	中国圏ブロック
相談内容	<p>岡山県勝央町内にある出雲街道勝間田宿は、今では当時を偲ばせる建物はほとんど残っておらず、石畳の道路が風情を保っている。出雲街道沿いの住民を中心に「勝央カープ」という団体を結成し、街道沿いの水路に錦鯉を放す活動や、ホタルの生息地再生等の活動をしている。街道沿いで開催される「天神祭」など、古くから伝わる地域の伝統を守りつつ、勝央カープの活動を進め、地域を活性化したいと取組んでいる。鳥取県倉吉市や鹿野町でまちづくりの実績をあげられている澤田氏をお招きし、アドバイスをいただきたい。毎年7月23日～25日に行われる天神祭の最終日(平成30年7月25日)に澤田氏にお越しいただき、勝間田の町並みと天神祭(特に最終日の提灯送り)をご覧いただき、翌日は、区長をはじめ勝央カープメンバーを中心とした地域住民のまちづくりについての意見・要望を聞いていただき、共にまちの将来に向けて考え、アドバイスをいただきたい。</p>		
相談への対応内容	<p>澤田氏に平成30年7月25日にお越しいただき、実際に「天神祭」を見て、参加していただいた。翌朝は、出雲街道の町並みや錦鯉の放流場所等を見ていただいた上で、区長や勝央カープ会員、地域住民を対象に、まちづくりについての講話と意見交換、アドバイスをいただいた。</p>		
成果	<p>実際に、出雲街道や天神祭を見てご参加いただいた上で、勝央町出雲街道勝間田宿の価値を伝えてくださったお陰で、住民だからこそ見落としがちな「地域の問題意識」や「誇り」について気付かせていただくことができた。また、澤田氏のまちづくりにおける豊富な経験から、歴史的まちなみ環境整備に対するポイントや方向性を示していただき、勝央町の良い所や課題を改めて見つめ直すことができた。まちづくりとは、「地域に対する愛、情熱」「楽しみながら、行動をつづけること」というメッセージをいただき、今後のまちづくりを進めていく勇氣と可能性を感じさせていただいた。</p>		
課題	<p>小さな地域の活性化といえども、短期的な計画では成果が出るものではなく、中長期的な計画で進めていかなければならない。現在の勝央カープ会員は70～80代が多くを占めており、若い世代の新規会員獲得や、世代交代が課題である。</p>		
今後の方針	<p>錦鯉の育成と放流については、現在行っているイベント実施と合わせて継続していくが、更に、地元漁業組合とも連携して子どものならず、保護者を巻き込めるような企画で若い世代の会員確保につなげたい。また、ホタル再生については、ホタルの育成には水温管理や水質管理が必要であることから、夏休み中の小中学生家庭を対象に1家庭1水槽でホタルを育てる企画を実施する予定。多くのご家庭にご協力いただくことで、ホタルへの関心や愛着を促す。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	国東市の「里山」の現地確認	相談主体	大分県国東市
派遣伝道師	天野 礼子	ブロック名	九州・沖縄ブロック
相談内容	<p>国東市は少子高齢化が進み、これまでは住民達の協力で当たり前に行っていたことが、できなくなりつつある。山の管理もその一つである。現在は、山に人の手が入らず、竹が生い茂り、気軽に山に入れない状態となっている。また木材の価格も低迷し、悪循環を繰り返している。また、最近ではシカ・イノシシ等による農作物への鳥獣被害も多くなっている。住民が暮らす里に近い山、いわゆる「里山」をきれいにし、人が気軽に山に入れるようにすれば、シカ・イノシシ等による鳥獣被害も減るのではと考えている。</p> <p>島根県高津川流域で活動しているNPO法人「日本に健全な森をつくり直す委員会」事務局長の天野礼子氏を招き、国東市の「里山」の現状を見ていただき、どのように進めればよいか意見を頂きたい。</p>		
相談への対応内容	<p>平成30年5月15日に天野礼子氏に、国東市の「里山」の現地確認をしていただき、翌16日にも意見をいただいた。</p> <p>【平成30年5月15日】 国東市役所にて相談内容の再確認と現地確認箇所の説明後、国東町浜崎の「里山」と「ため池」の状況確認、国見町赤根の椎茸生産者を訪問し、国東市の特産品である椎茸の栽培状況の確認と、赤根地区にある林道(峯道ロングトレイルのコースの一部)とその周辺の状態を確認していただいた。</p> <p>【平成30年5月16日】 【伝道師の意見】現地確認後の意見は、①急峻な場所がないので、思ったよりやりやすそう②モデルを作れる③「森林のランドデザイン」をまず作る必要がある。”モデル林”を作れば、今は人手がなくても、将来担ってくれる人が現れる。島根県吉賀町柿木村自治区民が行っているモデル林、シイタケ林(作り方、見せ方を検討)、トレッキング林(森林環境税を使い整備。民間企業・森林組合と協力)の3つをつくることを進めてはどうか。</p>		
成果	<p>○国東市の森林に対する施策を進めるためには、事例研究、体制づくり(市と森林組合との連携)が必要であるとの共通認識が得られた。</p> <p>○天然ウナギや天然アユ、海の魚が減ったという現実から、森林組合だけではなく漁協とも連携の必要性もあるとの課題認識を持った。</p> <p>○山に人が入っていける仕組みができれば、里山をきれいにすることも可能であるという意識改革ができた。</p>		
課題	<p>○国東市にとって健全な「里山」「森林」とは、どういう状態なのかを早急に探る必要がある。</p> <p>○国東市の山林は小規模のため、森林組合の協力が必要。協力体制をどのように作っていくか検討する必要がある。</p> <p>○雑木は金にならないため、伐採等の森林所有者の理解が得られにくい。雑木を伐れば森林所有者の利益になる仕組みをつくれればよい。</p> <p>○木を育て収入を得ることを生業(なりわい)とする人が少ないため、市が森林に対する事業を行うには、森林に対する市民啓発が必要である。</p>		
今後の方針	<p>○伝道師による現地確認を活かし、国東市にとって健全な「里山」「森林」とは、どのような状態なのか、また健全な「里山」「森林」になれば、川、海はどのように変わり、そして人の暮らしは、どのように変わっていくべきなのかを、引き続き天野礼子氏をお迎えし、市、森林組合、国東半島宇佐地域世界農業遺産協議会、その他の環境団体等と協力して、勉強会を重ねていく。</p> <p>○上記勉強会で方向性の確認ができれば、市民向けの講演会等も開催し、全市民に理解を得る取り組みを行っていく。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	農林水産業・観光	相談主体	鹿児島県肝付町
派遣伝道師	柴田 敏郎	ブロック名	九州圏・沖縄県
相談内容	<p>肝付町では平成23年度より地域活性化の一環として薬用作物「カンゾウ」の実証栽培に取り組んでおり、国内での栽培技術の確立と産地化を目指している。平成25年度及び平成26年度には地域活性化伝道師として柴田敏郎氏より、葉の黄化、落葉等の対策等について指導・助言があり、実証栽培において、大幅な残存株数の改善を図るなど、成果を得ることができた。</p> <p>現在は、次のステップとして一株あたりの重量増と薬効成分(品質)の含有量を向上させることが産地化へ向けた課題であると考えているところであり、その点について柴田氏からの助言を頂きたい。また、前回、柴田氏からの指導時から現在までの評価、それを踏まえての今後の展開についても助言を頂きたい。</p>		
相談への対応内容	<p>●平成30年9月11日 肝付町内の各圃場において、カンゾウの生育状況等について、柴田伝道師による現地調査を行った。指摘事項は主に下記のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生育不良について 全般に、特に2年目の株の新葉の勢いが弱く、肥料が欠乏してきている可能性がある。 ・落葉について 2年目の株については落葉が目立つ。さび病やうどんこ病、ハダニなど原因の特定と対策が必要である。 <p>●平成30年9月12日 肝付町内の各圃場において、カンゾウの生育状況等について、柴田伝道師による現地調査を行い、その後役場において講評がなされた。なお、12日は鹿児島大学農学部関係者も調査に参加した。講評において、下記のとおり改善点が提示された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培場所の選定においては、日当たり良好で地下水位が低いことに留意すること。 ・雑草対策について、除草剤や草刈機で対策を必ず行うこと。 ・肥料設計について見直しを行うこと。(遅効性肥料や液肥の活用。) ・病虫害対策について、鹿児島大学農学部関係者の指示に従って対応すること。 ・栽培系統について、肝付町の気象条件に適した系統の育成・選抜を行うこと。 		
成果	<p>・各圃場において、違ったアプローチでの実証実験が行われているが、各圃場の生育状況を伝道師が視察した上で、それぞれ応じた対処法について助言が行われ、今後の改善点などが明確となった。</p>		
課題	<p>・今回伝道師より指導・助言のあった項目について、肝付町内で改善し実証実験を続けていく必要がある。</p> <p>・収益性を考慮すると、薬効成分の含有量を上げ、買い取り価格を向上させること、根の収量を向上させることが必要である。</p>		
今後の方針	<p>地域からの要請に応じて、今後もコンサルティングや地域活性化伝道師の派遣等による支援を行っていく。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	ロケツーリズムによる地域振興セミナー	相談主体	長崎県島原市
派遣伝道師	藤崎 慎一	ブロック名	九州ブロック
相談内容	<p>ロケ地を観光に活用したロケツーリズムを通じて地域の振興を図り、全国に島原市をアピールするため、講師が携わった全国各地の事例等を紹介していただきながら、島原市としてのシティプロモーションのあり方について、助言等をいただきたい。</p>		
相談への対応内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ 藤崎伝道師講演『ロケツーリズムによる地域振興セミナー』 ○市職員をはじめ市議会や商工・観光関係者など約50名が参加。 ○ロケツーリズムに取り組んでいる全国各地の事例の紹介や必要となる組織体制づくりなどについて説明。 ■ 中核となるメンバーでのワーキンググループにおいて、セミナーにおける疑問点や不明な点、参加者の思いや考え方について確認し、今後の取組に対する考え方などを整理した。 ■ 市長をはじめ市職員との意見交換会において、ロケツーリズムに対する取り組み方や組織体制づくりについて方向性を確認。 ■ 市内の観光資源を視察し、地域の魅力を確認。 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ■ 藤崎伝道師が関係した事例の具体的な取り組み方や手法を紹介いただき、非常に参考になった。 ■ 市職員だけでなく各種団体も含め、ロケツーリズムを通じた地域活性化について意識を共有することができた。 ■ ロケ地として活用されたことがある「銀水」を視察し、観光資源としてだけでなく、店で提供する郷土料理「かんざらし」についても活用の可能性を確認できた。 ■ これまでにロケ地として活用された作品の確認を行い、再度活用する方法等について助言をいただいた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ■ すでにロケツーリズムに取り組む多くの地域がある中で、後発となる島原市では、どのような取り組み方ができるのか、官民一体となった検討が必要。 ■ ロケツーリズムでの地域活性化を推進するうえで、地域住民の理解も深める必要がある。 ■ 官民一体となった組織体制づくりが必要。 		
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ■ これまで島原市でロケが行われた作品の洗い出しを行い、ロケ地マップの作成やロケ地の整備等を行い、観光資源として活用していく。 ■ メディア関係の製作者を招いてのロケハンツアーの開催や、ロケ地の整備等を行いながら、組織・体制の確立を行っていく。 ■ 8月に開催予定の「全国ふるさと甲子園」などに参加し、市のPRを行うとともに、他自治体や製作者との情報交換を行っていく。 		